

令和4年度第1回十和田市総合教育会議 会議録

日 時 令和5年2月1日 午前10時00分より
場 所 十和田市役所 本館3階 庁議室

出席者 十和田市長 小山田 久
十和田市教育委員会 教 育 長 丸井 英子
" 教育長職務代理者 斗沢 一雄
" 委 員 大柳 均
" 委 員 深瀬 郁子
" 委 員 益川 毅

十和田市教育委員会事務局 教育部長 小川 友恵
" 教育総務課長 原田 克人
" 指導課長 佐々木 隆一
" スポーツ・生涯学習課長 高渕 貴徳
" 教育総務課長補佐 五十嵐 一美
" 指導課長補佐 馬渕 環
" スポーツ・生涯学習課 生涯学習係長 松尾 五月
" スポーツ・生涯学習課 指導主事 濱田 健太郎

教育部長	・ 本日は、ご多用にもかかわらず、ご出席を賜り、誠にありがとうございます。 ただ今より、令和4年度第1回十和田市総合教育会議を開催いたします。 はじめに、市長からご挨拶をお願いいたします。
市長	あいさつ（略）
教育部長	・ ありがとうございました 続きまして、次第2の議事に入りますが、ここからの進行は市長にお願いしております。市長よろしく願います。
市長	・ それでは、次第2の議事に移らせていただきます。『十和田市地域学校協働本部事業』について、(1)事務局から、今年度の活動状況の報告をお願いします。
指導主事	説明（略）33分16秒
市長	・ ただいま説明が終わりました。今年度から実施している「地域学校協働本部」でございますが、最初の年度で非常に予定どおり進んでいるなど思っております。しかも、子どもたちにとって大変大事なキャリア教育でございますが、十和田市の教育委員会では、これまでもコミュニティスクールを県内でもいち早く取り入れてきたということ、そしてまた、「夢わくわくスクール」といった事業を始めることによって、横の連携が大変活用されているなど感じられました。そこで、まず、2つに分けて、今まで実施している中でご質問や感じたことがあれば宜しく願います。その後で、今後の在り方について意見を伺いたいと思いま

	す。それではまず、今年度の協働本部事業の取組について、感想や質問があればお願いします。
斗沢委員	(挙手)
市長	・斗沢委員。
斗沢委員	・説明を聞いて、すごく分かりやすく、そして十和田市の今の教育の捉え方を教育委員会がどうやっているかがよく分かって良かったと思います。私も教育に関わった者として、昔、学校それぞれに学校評議員というものを作っておりました。今はその形が違いまして、学校運営協議会という形を作っている。その違いというものが分かれば、教えていただければ非常にありがたいです。
市長	・事務局。
指導課長	・学校評議員制度というものが学校教育法施行規則の中で決められたものなので、校長先生が必要に応じて設置することができるという制度でございました。校長先生が会議を必要に応じて開いて、校長の求めに応じ、意見を述べるというものが学校評議員です。個人の方を校長先生が指定して、その地域の方が意見を述べるという制度でございます。これが学校運営協議会、コミュニティスクールになりますと、まず、根拠法令が「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」という別法規になります。そして、学校の設置者が置くことが努力義務になっています。よって、教育委員会から委嘱状を出しています。そして、謝礼を払うということになっています。学校評議員は無報酬でございます。会議の招集に関しても、会長が校長先生と相談して、協議会を持ちましょうと要求できます。学校も、学校の運営に関する計画や色々なことを説明して、学校長の承認を得てから教育活動をする形で、組織そのものが役割を持っている、責任ある立場で学校に対して意見を述べる、ということで、学校運営協議会を持つと、学校評議員制度をなしにして、乗り代わってきて、今は全部の学校が学校評議員制度を止めて、学校運営協議会、コミュニティスクールになったのが、令和4年度でございます。
斗沢委員	・分かりました。ありがとうございました。
市長	・他には？
大柳委員	(挙手)
市長	・大柳委員。
大柳委員	・大変ご苦労様でした。素晴らしい発表でした。これまでの人的資源を全部網羅してひとつに作り上げて、部長さんを中心に、全部、学校も社会教育も一緒になって、昔からよく言われる「学社連携」が本物だなあと感じました。ほんとにご苦労様でした。特にコーディネート機能を教育委員会に置いたということが大変ヒットだと思います。これで、ずーっと続けていくと思います。これはすごくいいなと。他ではやっていない

	ような発表でしたけど、十和田市はこれで絶対上手くいくと思いました。ひとつ聞きたいことは、各種保険の調査をしてきたということ、もう少し詳しく結果を教えてください。
市長	・事務局どうぞ。
ス生課長	・保険の対応の件ですけども、市をはじめ、公共事業に絡んで色々な市民総合賠償補償保険がございまして、どういう場合にどういう保険の適用があるのかというのを、市の管財課やまちづくり支援課が抱えているものなどを総合的に見ながら、ということになっています。基本的には、学校の活動の中に我々が講師を送り出すという形ですので、事故の関連については、学校側の保険をまず優先して取り扱っていかうということになっています。
市長	・よろしいですか？
大柳委員	・はい。
市長	・他に？
益川委員	(挙手)
市長	・益川委員。
益川委員	・事前に資料を送っていただきましたが、自分で読むだけでは、なかなか理解しきれないところも先程の説明でよく分かりました。当時、昔ですが、地域の方々は協力していただきたいという思いで声や手を挙げていただいていたんですが、私たちとしては、「ここはちょっとお願いしなくてもいいのにな」というのもあったりして、ミスマッチというところも今の資料 11 ページで、学校のニーズをきちんと聞いてから対応するだとか、非常にいいやり方を作っていただいているなと感じました。十和田モデルというか、このやり方は、青年会議所の方々も依頼したことに対応していただいたりだとか、PTAもお願いされれば講師の紹介もしていただいたりできる形なので、是非この形は続けていただけたらと思います。ありがとうございました。
市長	・最後に、深瀬委員。
深瀬委員	・私は、まさに他団体との連携の部分で、読み聞かせの団体に入っていて、必要としている学校に人材を送れていないので、読み聞かせの団体からも働きかけているのですが、教育委員会としてハブになるところがあって、各学校に読み聞かせ団体からも人材派遣すると、物事がスムーズに運ぶので、とてもいい機能になればいいなと思っております。それから、朝に、あいさつ運動で街角に立つことがあります、学校でこうしろと指導しているかどうか分かりませんが、生徒がやっていることで色々思うことがあるんですが、それを誰に伝えたらいいのかという術がなくて、直接校長先生に言うのも勇気がいるし、現場に立って思った気持ちを伝える場所が教育委員会であれば、また話しやすくフィード

	バックしていい活動に繋げていけると思います。
市長	・ありがとうございます。 丸井教育長。
教育長	・十和田市の各校は、それぞれ、地域との連携を大変深めてきたという歴史的な経緯があります。そういう財産がありながら、国では「地域学校協働本部を設置せよ」とのことでしたので、どうバランスを取っていくか。先程、濱田指導主事から説明もありましたが、どうバランスを取っていくか。活かしながら、そして、それをもっと広げていくには、ということで、令和元年度から様々研究してきて、十和田版の地域学校協働本部という新しいものを作ってきました。これまで学校ごとでやっていたことを、行き届かなかったところに、教育委員会として手を差し伸べる。でも、教育委員会に設置して、それが形骸化していく、ということも大変心配な部分でありました。国が設置しろと言ったから設置したけど、いつのまにか形骸化していく、といったことがないようにするにはどうしたらいいか、ということ、生涯学習係でかなり検討してくれまして、こういう体制であれば決して消えていくことなく、学校で培ってきた歴史的な背景も活かしながら、そして教育委員会として地域、学校をサポートしながら、ということが確実に成し遂げられていくな、と感じているところであります。委員の皆様からも様々な感想、ご意見、そして今後の課題もいただきました。ありがとうございました。
市長	・今、各委員の方々からご意見をいただきました。 各自治体によって違うと思うのですが、あまり大きな市だと、とても教育委員会だけでは面倒見切れないというのもあると思いますし、かといって、学校の負担のことも考えると、いくらコーディネーターを配置したとしても、学校の負担というものは大変大きくなります。そういう意味で、むしろ、現在の十和田市版というか、やっている姿が、学校と教育委員会の連携がスムーズにいく、また、あることを進めるにしても有効に、スピード感をもってやれる、そういったことがあるのかなと思っています。先ほど、これからの進め方について、各委員から「これからもこのまま続けてほしい」だとかありましたが、さらにこれからどういったことに気を付けてもらいたいだとか、どういうふうにあるべきだとか、そういったことを、もしあれば宜しくお願いします。
斗沢委員	(挙手)
市長	・斗沢委員。
斗沢委員	・今、ほとんどの委員も、市長さんもお話ししましたが、十和田市の取組というのは、コーディネーターを各学校に置かないで、市教委ですべてやったというのが特徴的だし、すごくいいと思います。現実、私も学校現場にいと、地域と関わりを持っている先生がそれぞれいるんですね。その先生が転勤してしまうと、どうしてもそれが途切れてしまう、というのが現状です。それをまとめるのが管理職で教頭先生だったりだとか、PTAの渉外担当の先生だったりですが、それが現状です。けども、その先生が代わると視点も変わってきて、はじめから全部やらなければ

	ならないし、そういったことを考えると、ワンランク上の方の市教委が、地域の人材ばかりじゃなくて、「資源というのはこうなんだよ」と紹介していくのはすごくいいことだなと思いました。そういう資源、こういうゲストティーチャーがいるよということを4月の校長会でも教頭会でも紹介して欲しいなと思っていますので、是非、続けてほしいなと思いました。もうひとつ、ゲストティーチャー、すごく良いんですよね。あの人頼みたい、この人頼みたい、というのがあるんですが、問題はお金です。正直言ってお金です。今言ったとおり、教育委員会じゃ、なかなか出してくれないということなので、小さい学校だとなかなか大変です。だけど、今、「夢わくわくスクール」で、教育委員会からキャリア教育のためにどうぞといことでお金を出してくれていますので、それを是非今後とも続けてほしいなと思っていました。
市長	・「夢わくわくスクール」は、今年1年目？2年目？
指導課長	・「夢わくわくスクール」は、令和4年度は2年目です。来年度は、3ヶ年目の事業となっております。
市長	・他に。
大柳委員	（挙手）
市長	・大柳委員。
大柳委員	・人材の表がありますけども、これは学校は紙を見て探すんですか。
市長	・事務局。
ス生課長	・学校側にはこのリストが行きますので、これを見てオーダーをこちらにいただく形の流れを取っております。
大柳委員	・今、時代が変化してきて、インターネットで検索して見つけて実施する、という形はできるのでしょうか？
ス生課長	・そういった対応も可能と考えますので、もう少し検討してまいりたいと考えております。
大柳委員	・ありがとうございました。
市長	・他にございませんか。
益川委員	（挙手）
市長	・益川委員。
益川委員	・学校として、部活動も地域への移行とか話がありますし、さらにこちらの方の活動もありますし、今年度からタブレット端末も始まったりとかで、大柳先生もおっしゃるとおり、環境がどんどん変わりつつあるなと

	いうのを非常に感じております。そういった中でのこの取組というか、活動なので、教育委員会の負担が多いのですが、変わる時にはどうしても歪が出るものだと思うので、現場の声を吸い上げながら、子どもたちのため、というのを大前提として進めていっていただきたいと思っておりました。課長、倒れないようにして下さい。
市長	・他にございますか。
深瀬委員	(挙手)
市長	・深瀬委員。
深瀬委員	・実際に活動してみて感じるのが、学校と自分たちとの連絡方法で、先生が電話かけてくださるんですが出れないこともあって、こんなにＩＴ機器が発達しているのに電話しかないと、いつも思っています。もっと有効な連絡方法がないのかなと思って活動しているので、もっと柔軟に、色々な物を使って、先生の負担にならないような連絡手段があればいいなと常々思って活動しています。
市長	・ありがとうございました。 最後に丸井教育長から、今年やってみて、来年度、もう少しこういうところに力を入れたいなどありましたら、来年度の進め方というか、お願いします。
教育長	・やはり、学校のニーズに応じていくということが第一前提ですので、学校のニーズの高いものを開拓していく、そのためには、やはり人材バンクをもう少し豊かにしていかなければいけないかなと思っております。また、コーディネーターを各校に置かないということにより、今、深瀬委員がおっしゃったように、連絡取りたい時に、なかなか学校の先生と繋がらないとかあると思います。また、学校側にすると、企業等と連絡を取りたくても、授業中で連絡を取る時間を見つけることができないということもございます。その中で、教育委員会に設置している協働本部がどのようにコーディネートしていくか、ということを考えていかなければならないと思います。担当者ひとりだけでなく、生涯学習係全体が同じ立場に立って、これを一大事だということでコーディネートしていく体制を取らないと、十和田市は学校数が多いですから、繋いでいくことことはなかなか厳しくなるかなと考えております。
市長	・ありがとうございます。 本日の議題以外でもよろしいですので、もし、その他ということで何かあれば一言どうぞ。
全員	(発言なし)
市長	・よろしいですか。 それでは、本日の総合教育会議、これで終了したいと思います。先程からお話しありましたとおり、こういった事業で、特に教育委員会の職員の負担が増えるかなというお話しがありました。まさに、負担は増える

教育部長	わけでありますが、その辺はしっかり工夫しながら、その分、子どもたちのキャリア教育は進むんだ、連携が取れるんだ、ということを考えれば、ある意味では、やらなければならないことかなと思っておりますので、今の働き方改革ではないですが、工夫をしながら進めてもらうようにお願いします。 それでは、以上をもちまして、本日の総合教育会議を閉じたいと思います。 事務局にお返しします。 ・ 本日はありがとうございました。 以上をもちまして、令和４年度第１回総合教育会議を閉会いたします。 本日は貴重なご意見をありがとうございました。
-------------	--